

4
10月11日
聖徒伝 110

「私という神の宮を 建て上げよう」

列王記第一 5～7章

エルサレム神殿建設

アウトライン

0. イントロダクション

I. 神殿建設の準備 5章

II. 神殿建設 6章

III. 宮殿建設 神殿の装飾 7章

IV. まとめと適用

私自身を

神の宮として建て上げよう



神殿の丘

【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

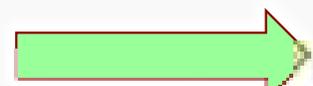
バベルの
塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地



①エデン
契約



②アダム契約



③ノア契約



④アブラハム契約

⑤モーセ契約



⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

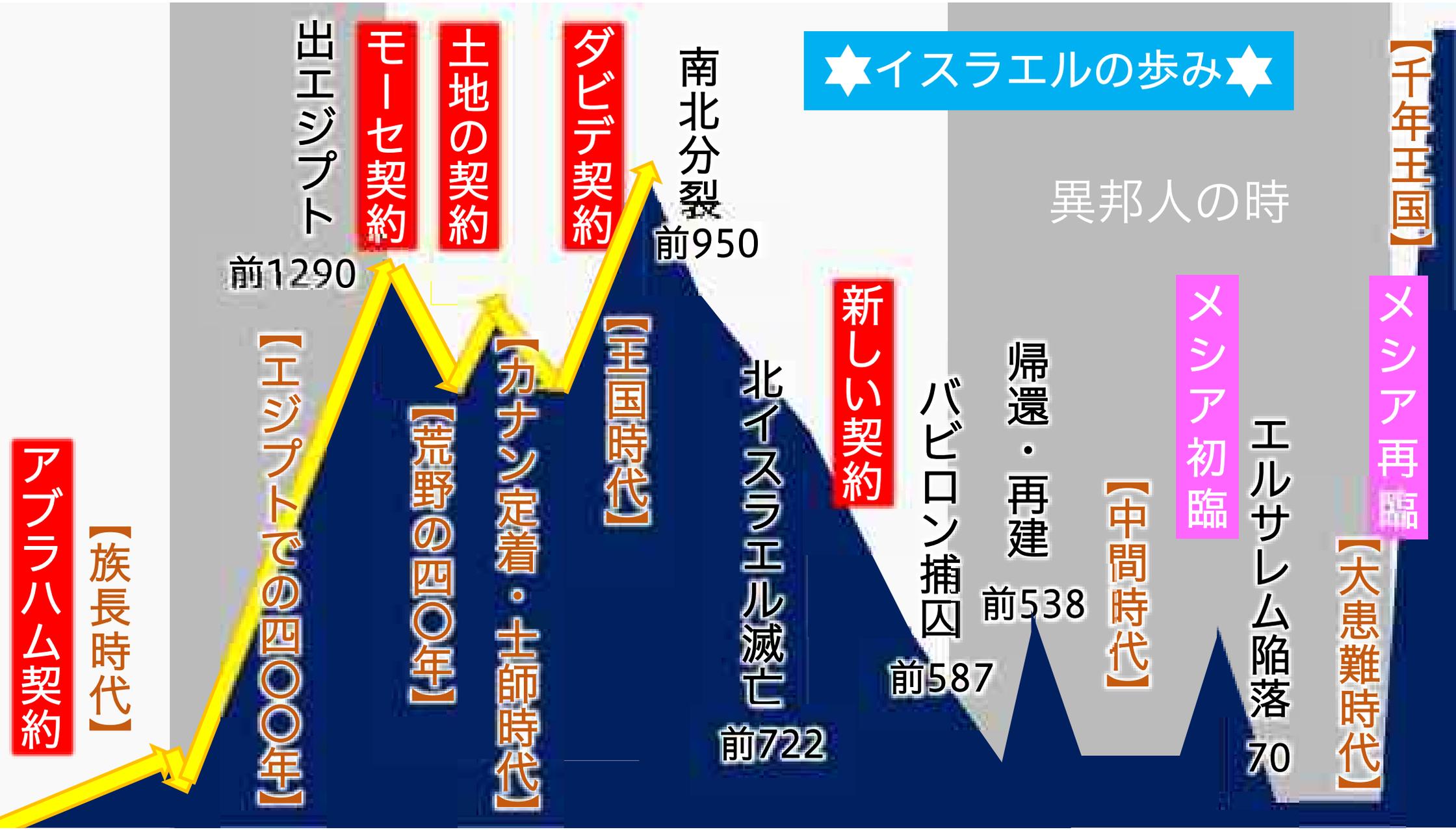
過去

現在

未来

どの時代も
神の約束が礎にある

★イスラエルの歩み★



列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ	
	2〜13章	預言者エリシャ			ホセア
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王

即位	1章	アドニヤの謀反 ナタンの忠告 動いたダビデ ソロモンの即位
基盤固め	2章	ダビデの遺言・死 アドニヤの陰謀・死 ヨアブの死 シムイの処刑
知恵	3章	ギブオンでのいけにえ 神の応答 ソロモンの願い ソロモンの裁き
繁栄	4章	ソロモンの政権 行政区 王国の繁栄 ソロモンの知恵
神殿建設	5～8章	職人、労働者 神殿の構造 祭具の構造 神殿の完成 神殿奉獻
名声	9～10章	ソロモンへの神の約束 建設事業 その他の業績 シェバの女王 栄華
背教と死	11章	ソロモンの背教 神の裁き 外的の出現 内的の台頭 ソロモンの死

イスラエルの王の系譜

サウル～ダビデ～ソロモン

- 神の時ではなかったが、民の希望で立てられたのが、**サウル王**。主に背き、王権を剥奪され、苦闘の末、ペリシテ人に討たれた。
- **サウル**亡き後、王となった**ダビデ**は、戦いを重ね、周辺国を平定。**エルサレム**を都とし、**神殿**の設計図を記し、建材を準備した。
- **ダビデ**の後に、**ソロモン**が油注がれて王となった。年若き**ソロモン**は、神に、民を治めるための知恵を願った。御心に適った願いに、神は、富と誉れをも加えて与えられた。
- イスラエルは繁栄を極め、**ソロモン**の名声は諸国に鳴り響いた。



Ⅰ. 神殿建設の準備

Ⅰ 列王記5章

【ツロの王ヒラム】 | 列王記5:1～2

さて、ツロの王ヒラム*は、ソロモンが油注がれて、彼の父に代わって王となったことを聞いて、自分の家来たちをソロモンのところへ遣わした。ヒラムはダビデと常に友情を保っていたからである。そこで、ソロモンはヒラムのもとに人を遣わして言った。

*ヒラムは、ダビデの宮殿建設の際、

杉材、木工、石工を送った。(IIサム5:11)。

■ソロモンは、即位の祝辞を送ってきたヒラムに、神殿建築の協力を依頼する使者を派遣した。



【主の安息の下で】 | 列王記5:3~4

「ご存じのように、私の父ダビデは、周りからいつも戦いを挑まれていたため、【主】が彼らを私の足の裏の下に置かれるまで、私の父の神、【主】の御名のために神殿を建てることができませんでした。

しかし今や、私の神、【主】は、周囲の者から私を守って安息を与えてくださり、敵対する者もなく、わざわざを起こす者もありません。」

■主(ヤハウエ)が、ダビデの戦いに勝利を与え、ソロモンの治世に安息をもたらされた。

➡異邦人への手紙でも、主を讃えるソロモン。



【ダビデ契約】 | 列王記5:5

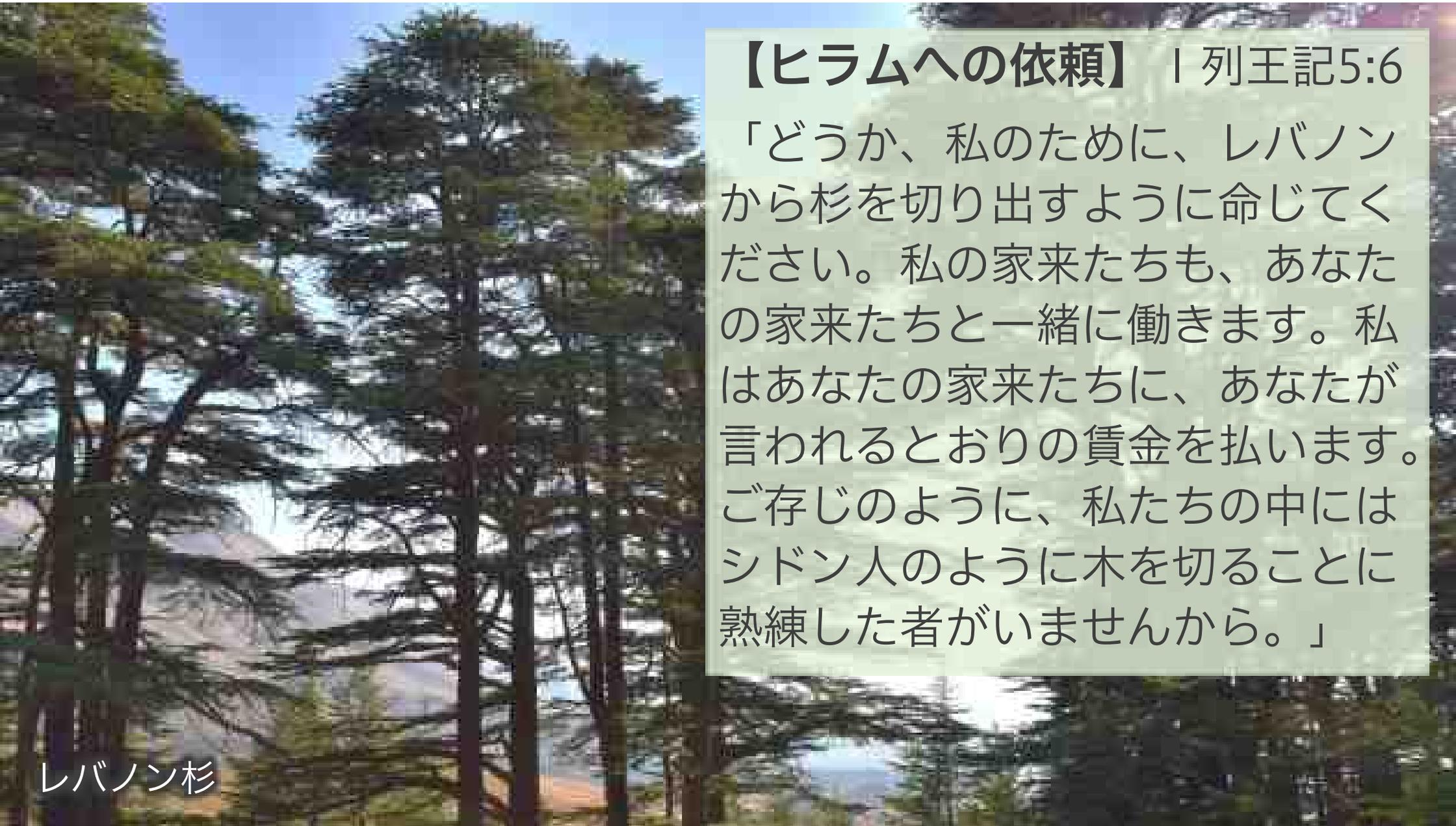
「今私は、私の神、【主】の御名のために神殿を建てようと思っています。【主】が私の父ダビデに、『わたしがあなたの代わりに王座に就かせるあなたの子、彼がわたしの名のために家を建てる*』と言われたとおりです。」

*ダビデ契約における、神殿建設についての命令。

■ソロモンは、神がダビデに約束されたダビデ契約の主の命令を今まさに実行しようとしている。

➡神殿建設の命令も、実行も主による!!





レバノン杉

【ヒラムへの依頼】 | 列王記5:6

「どうか、私のために、レバノンから杉を切り出すように命じてください。私の家来たちも、あなたの家来たちと一緒に働きます。私はあなたの家来たちに、あなたが言われるとおりの賃金を払います。ご存じのように、私たちの中にはシドン人のように木を切ることに熟練した者がいませんから。」

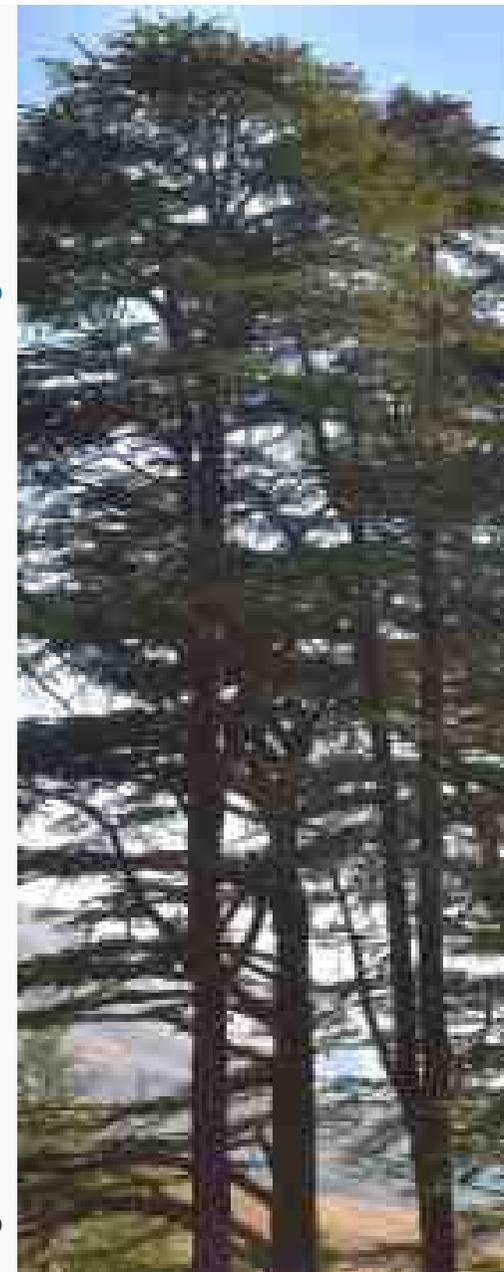
【喜んだヒラム】 | 列王記5:7~8

ヒラムはソロモンの申し出を聞いて、**大いに喜んで**言った。「今日、**【主】**がほめたたえられますように。**主**は、この大いなる民を治める、知恵のある子をダビデにお与えになった。」

ヒラムはソロモンのもとに人を遣わして言った。「あなたが言い送られたことを聞きました。私は、杉の木材ともみの木材なら、何なりとあなたのお望みどおりにいたしましょう。」

■ **イスラエルの神、主の御名**を讃えて喜んだヒラム。

唯一の神を恐れ敬う**異邦人の信仰者**だったと分かる。



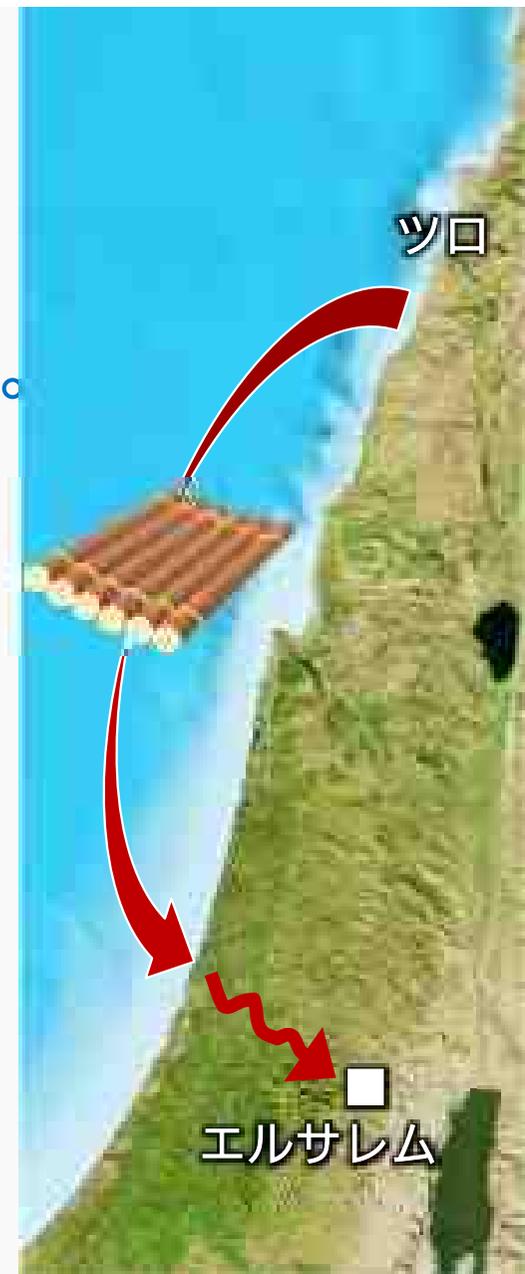
【ヒラムの応答】 | 列王記5:9~10

「私の家来たちは、それをレバノンから海へ下らせます。私はそれをいかだに組んで、海路、あなたが指定される場所まで送り、そこでそれを解かせましょう。それを受け取ってください。それから、あなたは私の一族に食物を与えて、私の望みをかなえてください」

こうしてヒラムは、ソロモンに杉の木材ともみの木材*を、彼が望むだけ与えた。

*高級木材。白い木肌が美しく、香りがよい。

神殿の内装材や扉などに用いられた。



【主の約束に基づく友好】 I 列王記5:11~12

ソロモンはヒラムに、その一族の食糧として、小麦二万コル(約4千t)と上質のオリーブ油二十コル(4,600ℓ)を与えた。ソロモンは、これだけの物を毎年ヒラムに与えた。

【主】は約束どおり、ソロモンに**知恵**を授けられた。ヒラムとソロモンとの間には平和が保たれ、二人は契約を結んだ。

■ 神を恐れるヒラムとの友好は御心に適っていた。

➔ 主の**知恵**がもたらした、二国間の平和条約。



【徴用された民衆】 | 列王記5:13～14

ソロモン王は全イスラエルから役務者*を徴用した。役務者は三万人であった。

ソロモンは、彼らを一か月交代で一万人ずつレバノンに送った。一か月はレバノンに、二か月は家にいるようにした。役務長官はアドニラム*であった。

*イスラエルの民衆から労働力として徴用された。

*徴用を指揮したソロモンの高官(Ⅱ列4:6)



【計18万3300人の労働者たち】 | 列王記5:15～16

ソロモンには荷を担ぐ者が七万人、山で石を切り出す者が八万人いた。そのほか、ソロモンには工事の監督をする長が三千三百人いて、工事に携わる民を指揮していた。

ソロモンの石切場

【建築者たち】 | 列王記5:17~18

王は、切り石を神殿の礎に据えるために、大きな石、高価な石を切り出すように命じた。

ソロモンの建築者たち、ヒラムの建築者たち、そしてゲバル人*たちは石を切り、神殿を建てるために木材と石材を準備した。

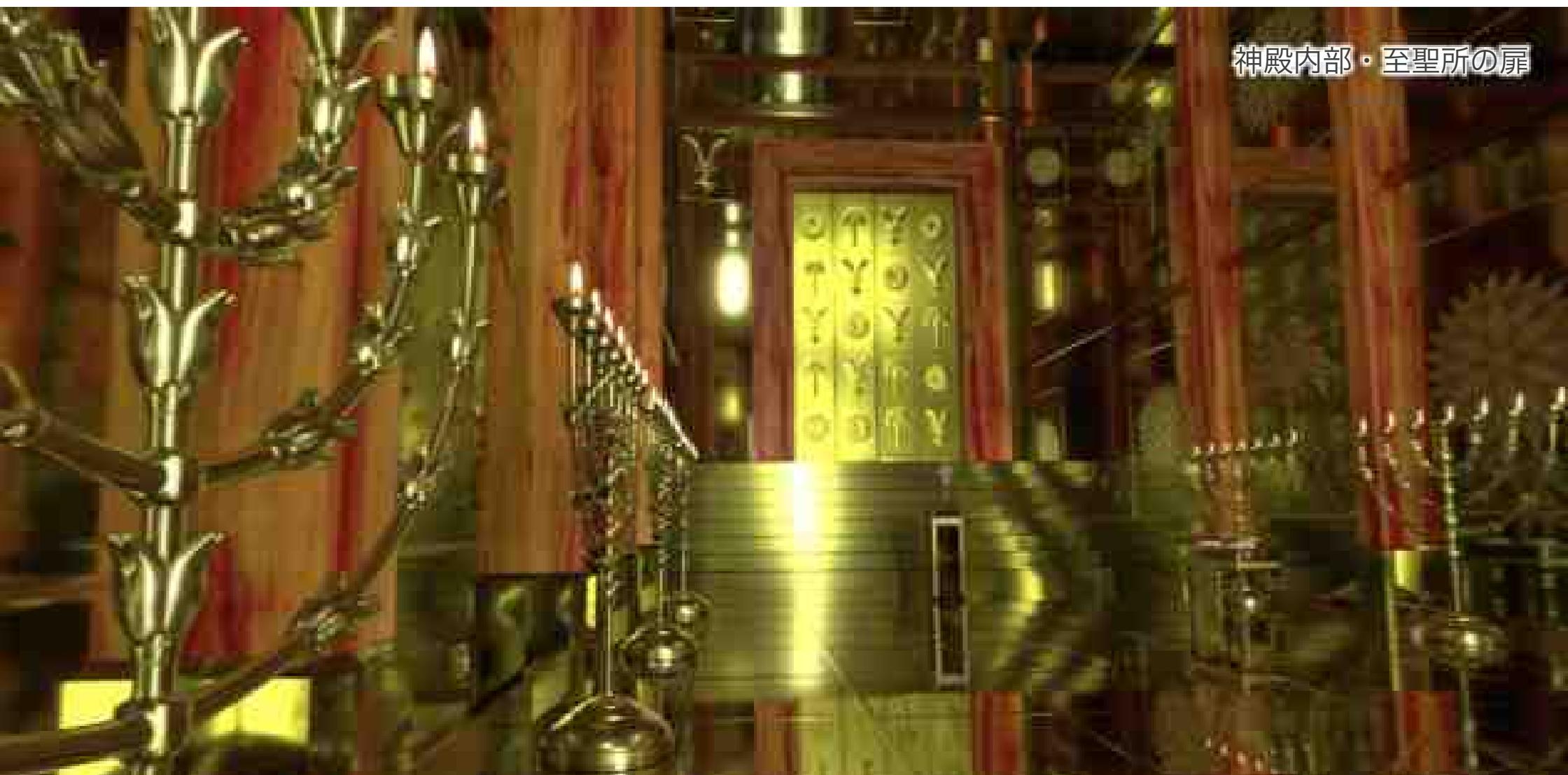
*ツロよりさらに北方の人々。

■ 神殿建設は、**神の民イスラエルと、**

神を恐れる異邦人の協力の上になされた。

→ユダヤ人信者と異邦人信者による教会の予型。





II. 神殿建設

I 列王記6章

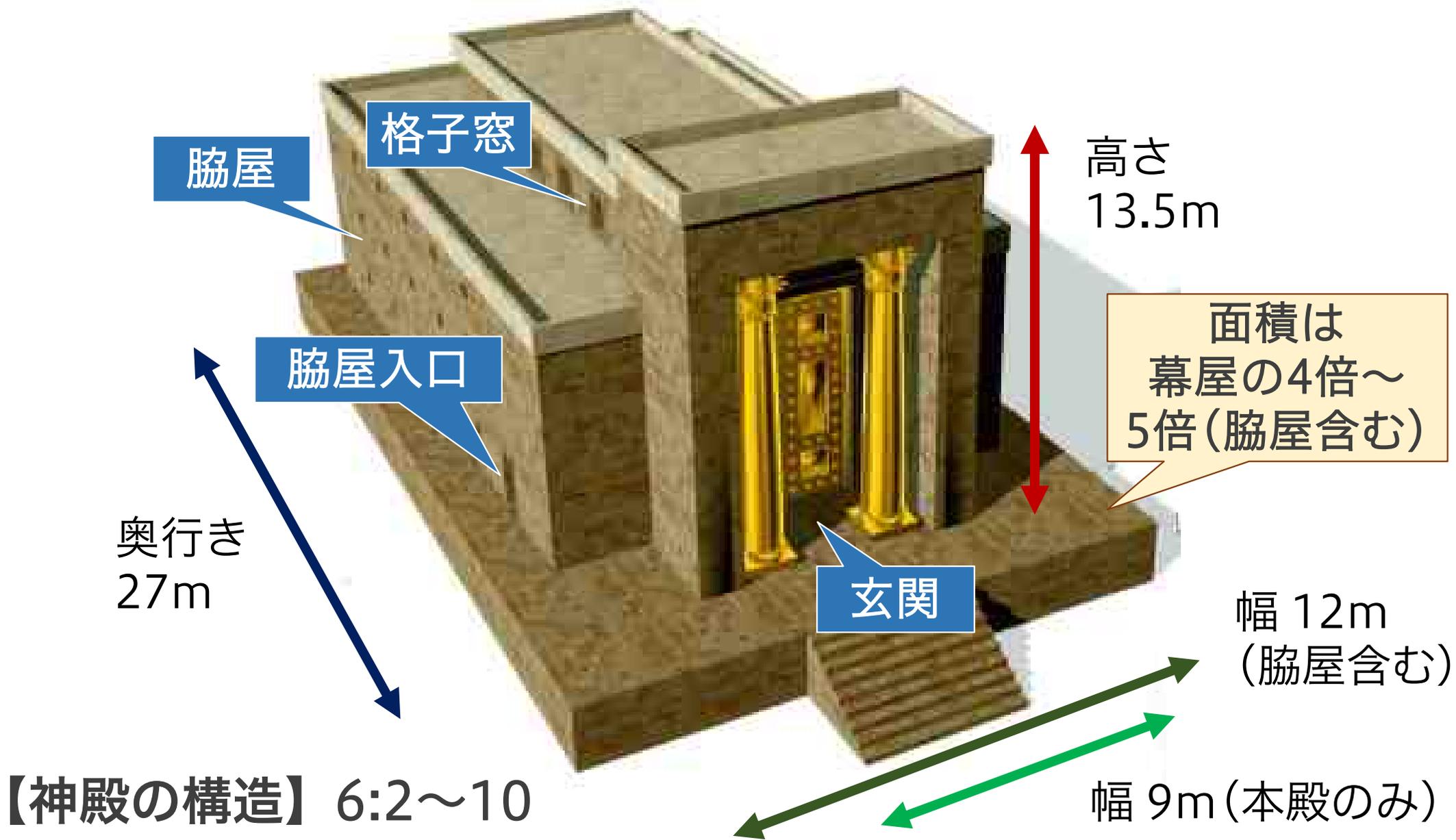
【神殿建築の開始】 | 列王記6:1

イスラエル人がエジプトの地を出てから四百八十年目*、ソロモンがイスラエルの王となってから四年目のジブの月、すなわち第二の月*に、ソロモンは【主】の家の建築に取りかかった。

*紀元前966年。出エジプトは紀元前1450年頃。

*5月頃。収穫が終わり、乾期が始まる時期。





【神殿の内部構造】 6:2～10



聖所

至聖所

脇屋

玄関

神殿の三方を囲む三階建ての脇屋が
構造的に神殿を支えた。

神殿内部は、柱のない大空間。

【主のことば】 Ⅰ列王記6:11~14

そのとき、ソロモンに次のような【主】のことばがあった。

「あなたが建てているこの神殿のことであるが、もし、あなたが**わたしの掟**に歩み、**わたしの定め**を行い、**わたしのすべての命令**を守り、これによって歩むなら、わたしはあなたについてあなたの父ダビデに約束したことを成就しよう。

わたしはイスラエルの子らのただ中に住み、わたしの民イスラエルを捨てることはしない。」

こうして、ソロモンは神殿を建て、これを完成させた。

神殿の
真の土台は
律法である



【聖所と至聖所】 6:15～20



聖所
(本殿)

至聖所
(奥の間)

脇屋

玄関

聖所 …幅9m×長さ18m×高さ13,5m
至聖所 …幅9m×長さ9m×高さ9m
神殿内部は、すべて金で覆われた

【神殿内部】 | 列王記6:21~22

ソロモンは神殿の内側を純金でおおい、内殿の前に金の鎖を渡し、これに金をかぶせた。

神殿全体を隅々まで金でおおい、内殿に関わる祭壇も全体を金でおおった。

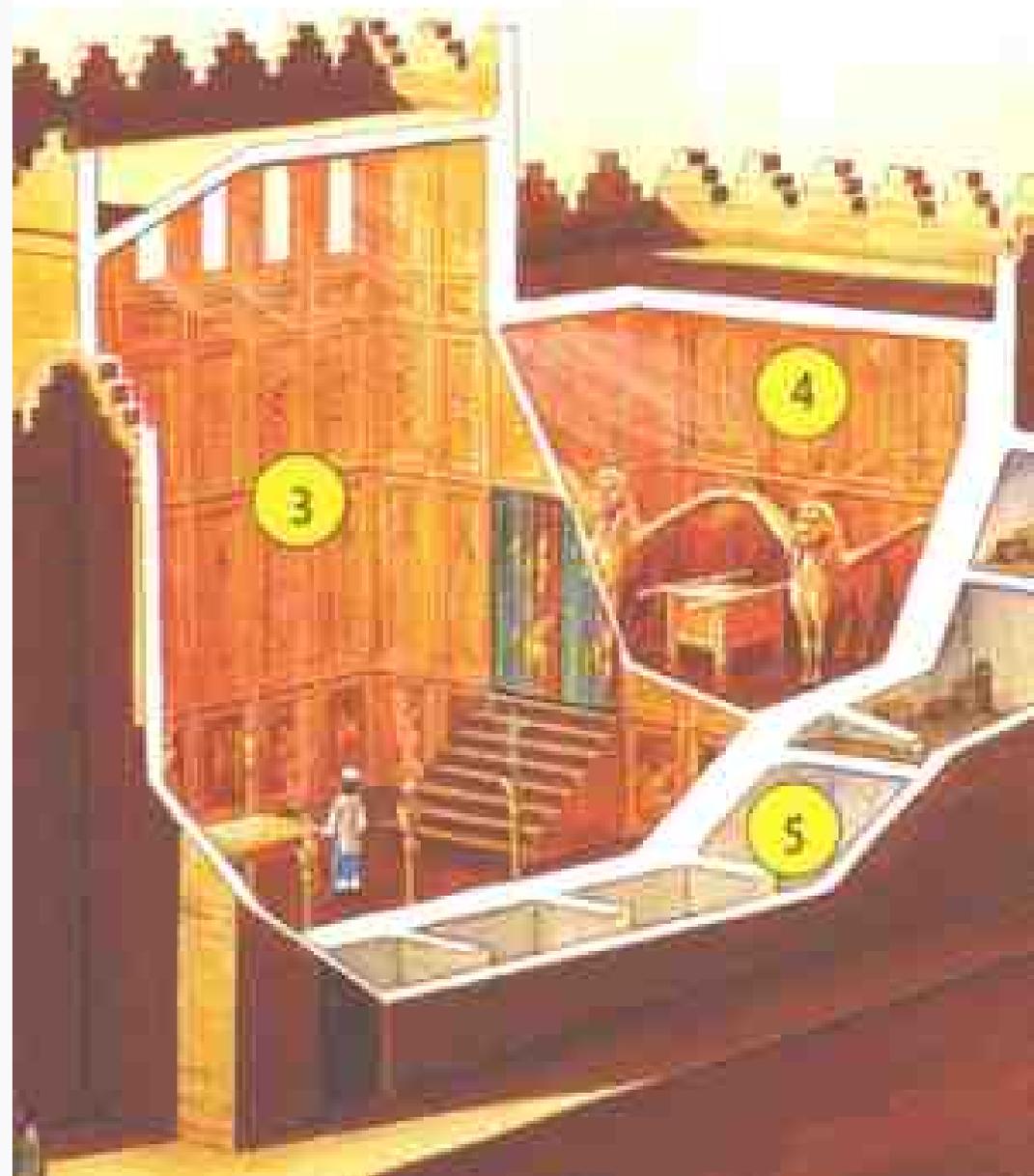
- ➔内部は杉材を張った上に、
金で覆い尽くしていた。
ケルビムとなつめ椰子の浮彫が。
(神の守り、神の豊かさの象徴)



【ケルビム】 | 列王記6:23～30

- ケルビム…主の最側近の天使。
- 幅4.5mのケルビム像が2体、至聖所に並んで設置された。ケルビムの翼の間に契約の箱が。
- 壁一面にも、ケルビムの浮彫が。

(※幕屋にもケルビムが刺繍。
契約の箱の贖いの蓋にも。)



【二つの扉】 | 列王記6:31～35

■ 内殿(至聖所の扉)

オリーブ材に金を貼り付けた。

■ 本殿(聖所の扉)

オリーブ材の支柱。もみの木の扉。
二枚の折りたたみ戸。

■ いずれも、ケルビム、なつめ椰子、
花模様の浮彫に、金を張り付けた。



【神殿の完成】 | 列王記6:36～38

それからソロモンは、切り石三段と杉の角材一段の仕切りで内庭を造った。

第四年のジブの月に、【主】の宮の礎を据え、

第十一年のブルの月、すなわち第八の月に、神殿のすべての部分が設計どおりに完成した*。七年かけて建てたのである。

* 聖霊がダビデに示し、記させた通りに!!

■ 神殿は、神が命じられた通りに建てられた。

➔ 昔の幕屋もモーセに命じられた通り建てられた。



それゆえ
神の栄光が
宿る

III. 宮殿建設 神殿の装飾

I 列王記6章



神殿の再現図

【ソロモンの神殿】 | 列王記7:1

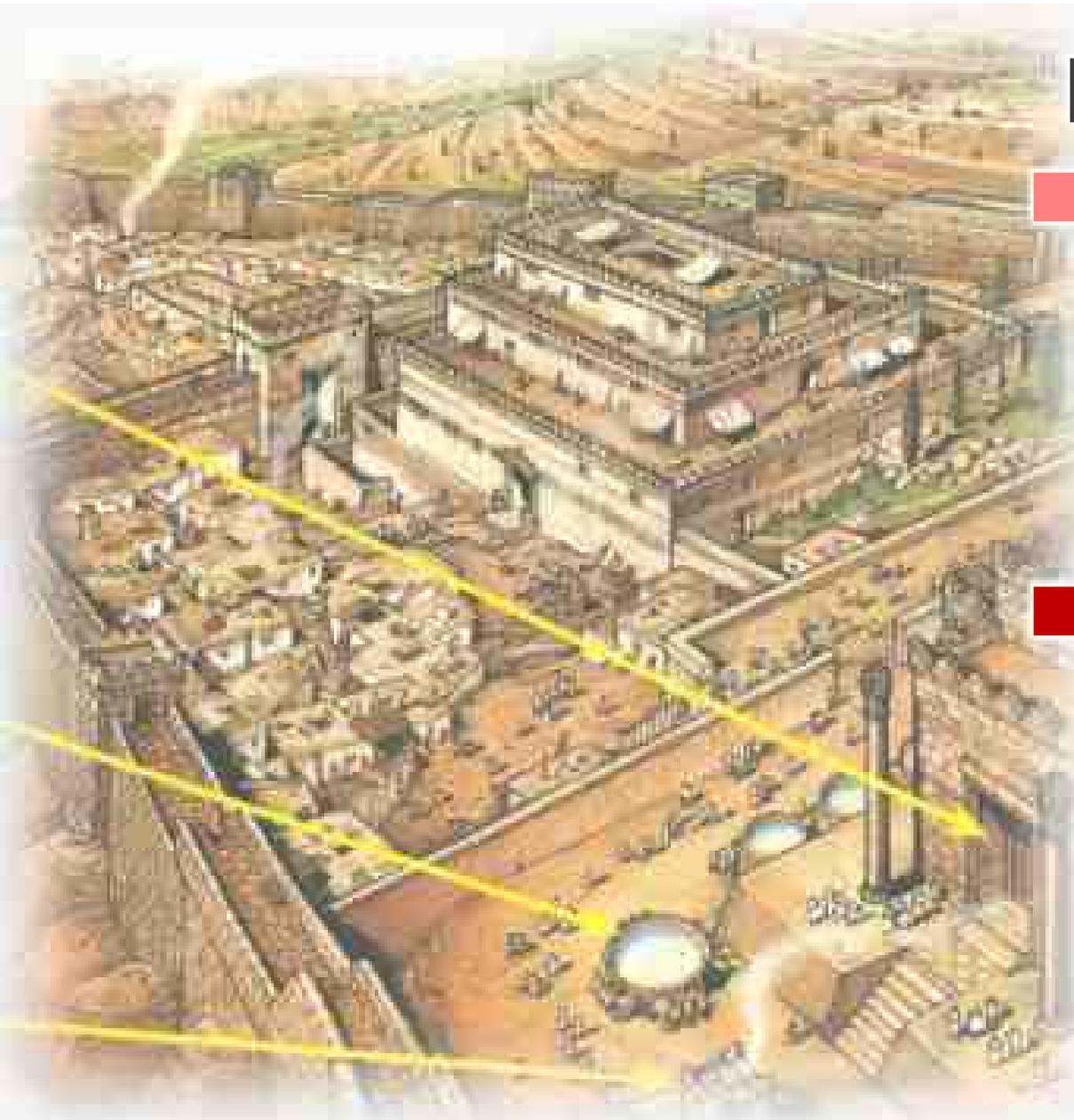
また、ソロモンは十三年をかけて自分の宮殿を建て、その宮殿のすべてを完成させた。

＊神殿の2倍近い時間と労力をかけて宮殿を建設!!

■ 各所に散りばめられるソロモンのつまずきの石。

- ① エジプトのファラオの娘をめとった。(3:1)
- ② 馬を増やし、軍事力を増強した。(4:26)
- ③ 自分のために豪華な宮殿を建てた。(7:1)





【ソロモンの宮殿】 7:2~12

■ レバノンの森の宮殿

幅22m×長さ44m×高さ13.5m

➡ 神殿の4倍の面積

■ 大空間を脇間で囲む構造は、
神殿と同様。

➡ 神殿を模しながら
スケールアップ!!

【ソロモンの宮殿】 7:2~12

■ 王宮のその他の建物

① 柱の広間

② 王座の広間 (王の執務室)

③ 王の家

④ ファラオの娘の家

➔ 同規模。それぞれ神殿より広い

■ 神殿と同等か、それ以上に

高価な建材で贅を尽くした造り。

神殿



【細工師ヒラム】 | 列王記7:13~14

ソロモンは人を遣わして、ツロからヒラム*を呼んで来た。彼はナフタリ部族のやもめの子であった。彼の父はツロの人で、青銅の細工師であった。ヒラムは青銅の細工物全般について、知恵と英知と知識に満ちていた。彼はソロモン王のもとに来て、その一切の細工を行った。

*ヒラム王とは別人。父はイスラエルのナフタリ族。

■ **イスラエルと異邦人**によって建てられた神殿。

重責を担った細工師は、両者の間に産まれた子。



【二本の柱】 | 列王記7:15~22

■ 柱9m + 柱頭2.2m = 11.2m

周囲5.3m (直径1.7m)

■ 柱頭の頂には、ゆりの花の細工。

他に、網状の細工。くろ状の浮彫
など、細かな細工が施された。

■ 柱の名は、

ヤキン (彼は確立する)

ボアズ (神によって彼は力強い)

→ダビデの曾祖父の名。



【鑄物の海】 | 列王記7:23～26

- 直径4.5m、周囲13.5m
高さ2.2m。厚さ15cm。
容量4.6 t
- 縁は、ゆりの花型に開き、
瓢箪状の細工が二段に。
- 東西南北に3頭ずつ、12頭の
牛が鑄物の海を支えた。



【十個の台と洗盤】 | 列王記7:27~39

- 台 …縦1.8m × 横1.8m × 高さ1.3m
- 洗盤 …直径1.3m。容量1 t。
- 雄獅子と牛とケルビム、花模様、なつめ椰子の木が細工。

7:37 彼は以上のように十個の台を作った。それらはすべて同じように鑄造され、同じ寸法、同じ形であった。

- 大きな銅器が、全く同じに造られた。
➡技術力の高さの現れ。



【神殿の完成】 1列王記7:40 さらにヒラムは灰壺と十能と鉢を作った。こうして、ヒラムは、ソロモン王のために【主】の宮でなすべきすべての仕事を完了した。



十能



【その他の品々】 | 列王記7:46~47

王は、ヨルダンの低地、スコテ*とツアレタンの間にある粘土の地でこれらを鑄造した。

ソロモンは、すべての用具を配置した。非常に大量だったので、青銅の重さは量られなかった*。

*ヤボク川を渡ったヤコブが一時滞在。

出エジプトのイスラエルも。

→古代から銅の山地として知られる。

*金、銀も大量にあり、青銅にいたっては、あまりに多く量りきれないほどだった。



【その他の品々】 | 列王記7:48~49

また、ソロモンは【主】の宮にあるあらゆる物を作った。**金の祭壇(香炉)**と、臨在のパンを載せる**金の机(供卓)**、内殿の前、右側に五つ、左側に五つ置かれる**純金の燭台**、金の飾り花、ともしび皿、芯切りばさみを作った。



祭壇(香炉)



金の机(供卓)



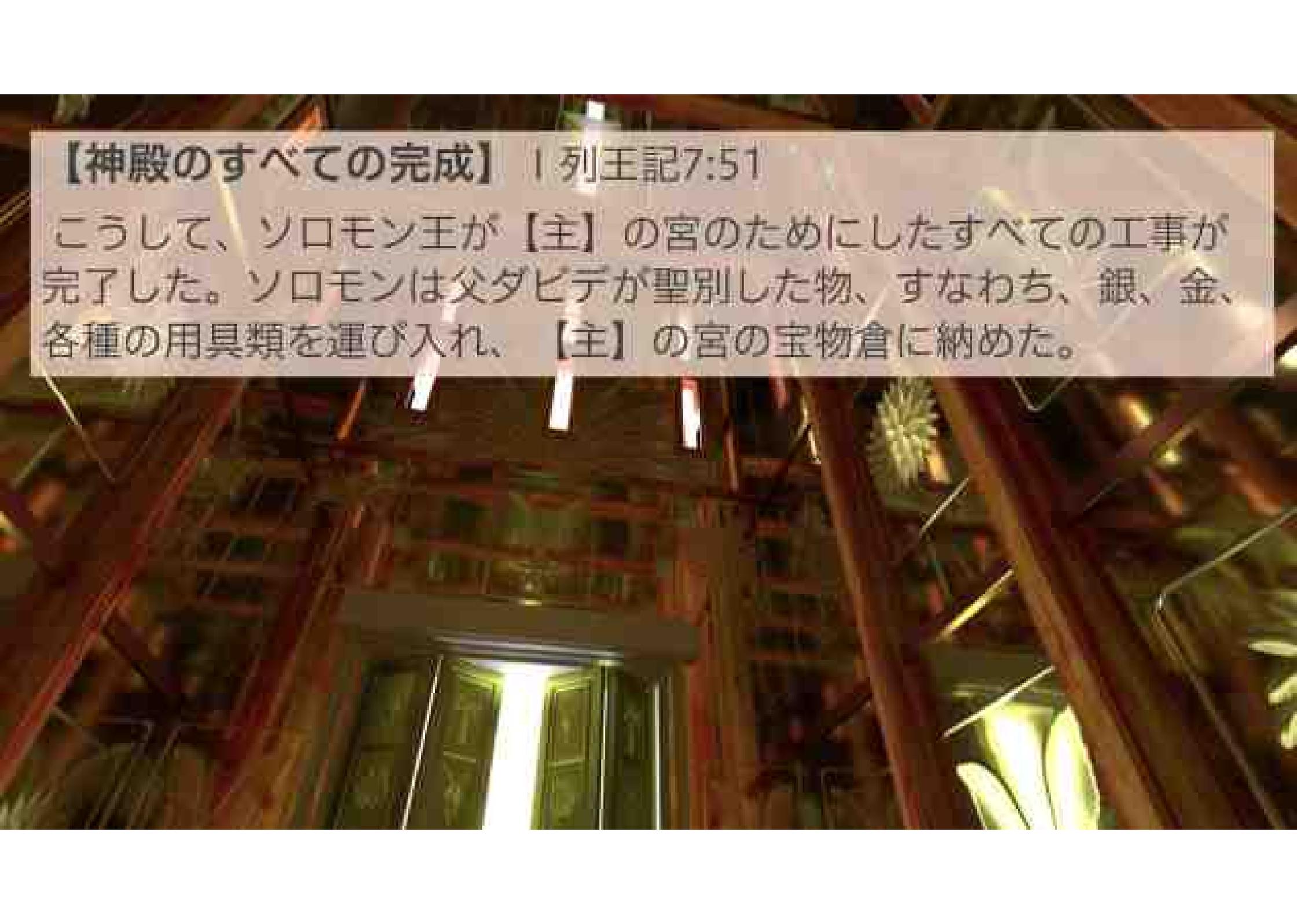
燭台



【その他の品々】 | 列王記7:50 また純金の皿と、芯取りばさみ、鉢、平皿、火皿を純金で作った。至聖所に通じる神殿内部の扉のちょうつがい、神殿の本殿に通じる扉のちょうつがいも金で作った。

【神殿のすべての完成】 1列王記7:51

こうして、ソロモン王が【主】の宮のためにしたすべての工事が完了した。ソロモンは父ダビデが聖別した物、すなわち、銀、金、各種の用具類を運び入れ、【主】の宮の宝物倉に納めた。





荘厳な神殿以上の者に
一人一人がされている！
圧巻の真理を確認しよう！！

IV. まとめと適用

私自身を神の宮として建て上げよう

【神殿建設に現れた、来たるべきメシアの王国の予型】

- 神の民イスラエルと、神を恐れる異邦人によって建てられた**神殿**。
重要な責務を担った細工師の長は、両者の間に生まれた**ヒラム**。
*ヒラム = “尊い、高尚”
- メシアニックジューと異邦人クリスチャンによるのが、**教会**。
主イエスの血潮により、主の目に一人一人がきよい者とされている。
- 神殿の奥の至聖所は、**天のエルサレム**の予型、影。
新天新地において**天のエルサレム**が、すべての信者の都となる。
➔主イエスご自身の栄光が、すべてを照らし、包み込む世界。

【エルサレム神殿建設に学ぶ】

- 建設前、途中。主が再三確認されたのは、神殿建設の土台。
 - ➔ 律法であり、**ダビデ契約**。**神の約束**こそ、神殿の真の土台。
- 律法に聞き従うことなしには、豪華な神殿もむなしいだけ。
 - ➔ 律法を守り行う限り、イスラエルの繁栄と平和は守られる。
- 神殿に住まわれる**神の栄光**は、
イスラエルの民が、主に聴き従う限りにおいて、働いてくださる。

【今の教会時代を生きる私たちへの適用】

- 今の時代、福音を信じた一人一人が、神の住まわれる宮。
 - ➔信仰者の内に、聖霊が、神の栄光が住まわれる。
- 信仰者に求められるのは、**キリストの愛の律法**に聞き従うこと。
 - ➔**主イエスの教え**。聖霊によって告げ、記した**使徒の教え**。
- 内に住まわれる**聖霊**は、
私たちが主に聴き従う限りにおいて、共に働いてくださる。

【生きた神の宮として私自身を建て上げるために】

- **ささげよう**。膨大な**ささげ物**によって神殿は建てられた。
私自身の、知力、体力、財力、時間、**すべてを主にささげていこう**。
→私が主にささげたものが、私という宮の建材になる。
究極的には、千年王国における、私の宮の建材となる。
- キリストの律法に聞き従おう。**御心に適う聖書の学び**こそ土台。
正しく主に聞き従うために、**聖書の学び**を深めよう。
→神殿建設は、思いだけではならない。確かな技術、知識も必須だった。
私の宮の建て上げに、**主の意図に沿う正しい聖書知識**を積み重ねよう。

信仰と御言葉に基づき、知情意すべてを宮として建て上げよう

■ 詩篇127篇 ■

都上りの歌。ソロモンによる。

127:1 【主】が家を建てるのでなければ
建てる者の働きはむなしい。

【主】が町を守るのでなければ
守る者の見張りはむなしい。

127:2 あなたがたが早く起き 遅く休み
労苦の糧を食べたとしても それはむなしい。
実に 主は愛する者に眠りを与えてくださる。

■ 詩篇127篇 ■

127:3 見よ 子どもたちは【主】の賜物 胎の実は報酬。

127:4 若いときの子どもたちは

実に勇士の手にある矢のようだ。

127:5 幸いなことよ 矢筒をその矢で満たしている人は。

彼らは門で敵と論じるとき 恥を見ることがない。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。
イスラエルがささげた、力、財(ざい)、技術(ぎじゅつ)、時間、
すべてをもちいて、エルサレムの神殿(しんでん)は建てられました。
私も、私という主の住まわれる宮(みや)を、み心にかなって
建て上げていくことができますように。
み言葉に聞きしたが、与えられたわたしのすべてを
ただ主にささげる者としてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」